

第131回 北信越地区高等学校野球大会（平成26年度秋季）派遣報告

報告者 桜井 智（北支部）

両田 潤平（南支部）

1 期 日

- 平成26年10月17日（金）
 - 14時00分～ 審判員打合せ会議
 - 16時30分～ 開会式（石川県立野球場）
 - 19時00分～ 役員会（ホテル金沢）
- 平成26年10月18日（土）
 - 9時00分～ 第1回戦（石川県立野球場他2）
- 平成26年10月19日（日）
 - 10時00分～ 第2回戦（石川県立野球場他1）
- 平成26年10月25日（土）
 - 10時00分～ 準決勝（石川県立野球場）
- 平成26年10月26日（日）
 - 10時00分～ 決勝・閉会式（石川県立野球場）

2 会 場 （1回戦3会場 準々決勝2会場）

石川県立野球場（金沢市）
金沢市民球場（金沢市）
弁慶スタジアム（小松市）

3 派遣審判委員

- 富山県 酒井 雅紀 水上 晃
- 長野県 宮坂 浩 小林 孝道
- 福井県 森下 伸一 半澤 宏一
- 新潟県 桜井 智 両田 潤平

4 審判員打合せ会議確認事項

- 石川県では、高野連の手引きに基づくフォーメーションは行っていない。日本野球連盟のフォーメーションで行う。
- ゲーム終盤で、1点を争うような展開になった場合、走者2・3塁、走者満塁のケースでは、Ⅱ塁審は外へ出る。（打球に当たるリスク回避のため）
- イリーガリーピッチ等は、まず注意。紛らわしいものは適用しない。
- 平成26年度重点指導事項（資料により）の確認
- 平成26年度周知徹底事項（資料により）の確認
- 第86回選抜高等学校野球大会を終えて（資料により）の確認
- 金属製バットの取り扱いについて（資料により）の確認

○第131回大会における注意事項

- ・投手がボールを手にしたら直ちにプレートにつき捕手のサインを見る。
- ・捕手が投手に返球する際前に出ない。その場から速やかに返球。
- ・捕手が野手への声は、返球後に行う。
- ・ランナーコーチ，先頭打者，次打者は，円陣に加わらない。
- ・スリーアウト後のボールは，必ず投手板に置く。(転がしたり，審判に渡したりしない。)
- ・捕手のオブストラクション，打者の捕手送球に関するインターフェアに十分留意する。
- ・体近くの投球に当たりに行く行為への厳格な対応。(ボールとする)
- ・併殺を防ぐために野手に向かって走塁するような行為は，インターフェアとする。
- ・相手を騙すだけが目的のトリックプレイは禁止する。(無効とする)
- ・試合前に十分なミーティングを行うこと。
- ・トスは，第一試合は試合開始40分前，第二試合以降は，開始予定時間の1時間前。
- ・走者1塁，2塁及び1・2塁時に，捕手がタイム要求(一人によるタイム)した場合は，球審はタイムをコールせず，マウンド付近で選手の動向を見る。
- ・打者がサインを見る時は，打者席内で見えることを徹底する。
- ・4審判委員が協議による裁定を下す場合は，再開の仕方を含め球場責任審判委員に報告の上，再開する。

5 担当試合

○10月18日(土) 一回戦 石川県立野球場 第一試合

金沢商業(石川県第一位) 2対9 富山第一(富山県第三位) 8回コールド
桜井：球審 両田：1塁

○10月19日(日) 準々決勝 石川県立野球場 第二試合

金沢高校(石川県第四位) 5対6 松商学園(長野県一位)
両田：球審 桜井：1塁

※一回戦，準々決勝で石川代表が全て敗れたため，準決勝，決勝の球審は全て石川県が担当するとの連絡あり。

○10月25日(土) 準決勝 石川県立野球場 第一試合

敦賀気比(福井県第二位) 7対0 富山第一(富山県第三位) 7回コールド
桜井：1塁

○10月26日(日) 決勝 石川県立野球場

敦賀気比(福井県第二位) 6対0 松商学園(長野県一位)
両田：2塁

6 試合運営関連(前後ミーティング等)

○トスは，球審が1名で行う。(県立野球場は，正面玄関で)

○用具点検は，第一試合は，トス後すぐに，第二試合以降は，シートノック中。

- 4 審判委員が集まって協議した際は、球審または責任審判委員が必ず場内にも説明する。
- タイムの確認は、「当該ベンチ側塁審」→「控審判員」→「本部」→「当該ベンチ」必ずこの順番で行うこと。
- 右翼、左翼の距離が非常に短い（91.5m）ので、ライン際の飛球は、振り向いて見るだけにしてほしい。動いてしまうと、ファールポール上の打球判定を誤る恐れがある。
- 投手交代時など、ベンチから出て素振りをする選手がいた。止めさせること。
- ゲーム展開によって、捕手の一人タイムは認めない。意味がないと思われるタイムは認めない。認めた場合でも一言程度で切り上げさせる。
- 「スイング！」での打者へのポイント（指さし）は、しっかりと残す。
※石川県では、「スイング」「タッグ」の指さしをやらないという方針は採用していない。スタンドを含め、説得力のある判定のために、必要ではないかと考えている。
- 1 塁走者の2 塁でのタッグアウトの判定を巡り、1 塁走者より「タッグされていない」との抗議あり。その後ベンチからも抗議があり、球審が4 審判委員を集めプレイの確認。1 塁走者の2 塁タッグアウト認め（抗議を否認）、その後、球審が場内放送。放送内容に齟齬があり、球場が騒然となる。4 審判員が集まった段階での、的確な状況の確認と放送テクニックもトレーニングする必要がある。
- 4 審判員が集まった時は、ベンチに了解を求める所作を明確に行う。そのことで、スタンドは、ベンチが納得していることを理解できるので、無用なヤジ等を防ぐことができる。
- 前ミーティングにおける確認事項が、ゲーム中に守られていない。特に、フェア・ファールの判定テリトリーは、ダブルジャッジを防ぐためにも前ミーティングの確認を的確に実行する。

7 所見

今回の北信越大会は、天候にも恵まれ、予定通り日程を消化することができました。新潟県勢は、中越高校が準決勝に進みましたが、松商学園に4対3、1点差で惜敗する結果となりました。また、日本文理が準々決勝へ進み、北越高校も初戦で敗退しましたが、松商学園と打撃戦となり、見ごたえのあるゲームだったと感じています。

各県代表校のレベルの高いゲームを体感できたことを、今後の審判活動にしっかりと活かしていきたいと改めて感じました。

また、石川県審判委員の皆さんをはじめ、各県審判委員の皆さんと、アンパイアリングに関する意見交換をはじめ、多くの交流できたことも貴重な体験として活かしていきたいと思っています。

第131回北信越大会へ派遣頂きましたことに、心から感謝申し上げます、報告とさせていただきます。